

foliosus. Folia e basi subconstricta ligulato-lanceolata, sensim attenuata, marginibus in toto late recurvis, usque ad 2 mm longa, 0.5 mm lata; costa valida, longe excedente; cellulis in medio folii subquadratis, basin versus laxioribus, in toto levibus, alaribus rectangularibus. Seta 7 mm alta, curvatula, rubra. Theca suberecta, 1.5 mm longa, 1 mm crassa, deoperculata ovata, gymnostoma. Operculum brevirostratum. Spori papilloosi, virides.

Honshu: Insula Awajishima (Leg. Y. Tutiga—Typus in Herb. K. Sakurai no. 20443, Jan. 1952).

シマネデレゴケ 淡路島のある御陵の岩上に生ず。本属中には藓齒を缺くもの數種あるもその何れとも異なるを以て新種と決定す。槌賀安平君の採品である。

〇ハリグワの分布について (豊田 清修) Kiyonobu TOYODA: On the distribution of *Cudrania tricuspidata* Bureau.

ハリグワの遺體が亙理俊次博士によつて明石で發見され、その後横濱の倉田層に於ても採集された。また豊田は横濱市波澤町中村、藤澤市聖谷及び藤澤市片瀬町龍口寺裏に於てもかなり多く採集した。

現在のハリグワの產地としては東亞では中國(四川省、山東省、浙江省、江蘇省、滿州)、印度、朝鮮、濟州島、莞島、外羅老島、巨文島、鳥島で、日本では自生しないことが定説となつているが、一部に自生説がある。栽培品は小石川植物園、林業試驗場等にあり、時に他の地で見られるのは蚕飼として栽培したものか又はその逸出したものと考えられる。その腊葉標本は東京科學博物館に數葉あり、產地は支那江蘇省、山東省となつており、外に岩代國伊達郡栗野村、小石川植物園の各栽培品がある。東京大學植物學教室には久内清孝氏が武州御嶽山下で採集したもの外、石塚氏が富士青木原で採集したものがあり、後者がハリグワの自生説の根據となつていることが解つた。これは調べた結果石塚末吉氏が本栖湖の部落端から北東約 200 m の道路脇で 2 株發見、昭和 5 年夏採集して中井猛之進博士に送つたものである。

豊田は昭和 27 年 8 月富士山麓に赴き青木原を調査したが見當らず、石塚氏が採集したと云われる場所で漸くにして見出すことが出来た。高さ 2.3 m 乃至 1 m 内外のが數本あり稚苗もかなり多く、これらは側根より芽を生じた蘖である。この植生の環境を見ると、道路と島で以て圍まれ、自然林まで凡そ 50 m の距離があり、人家から 150 m 位しか離れていない。それに青木原の自然林からは今の處見出せないことを考えると、これはやはり自生ではなく、蚕飼として或は生垣として栽植したか、或はこれらが逸出して野生化したと考えるのが妥當であらう。